

医療法人社団 誠療会
成尾整形外科病院
 理事長 院長 成尾 政一郎

【診療科目】
 ◎整形外科 ◎リハビリテーション科
 ◎リウマチ科 ◎麻酔科(野上俊光) ◎漢方内科

【診療日】
 月曜日～土曜日
 ※土曜日は午前からの診療です。
 担当医師は診療曜日・時間によって異なります

【診療時間】
 平日 / 9:00～17:30、土曜 / 9:00～12:30
 ※外来受診は予約制となります。
 事前にお電話でのご予約をお願いいたします。

【休診日】
 日曜日、祝日、土曜日午後、年末年始

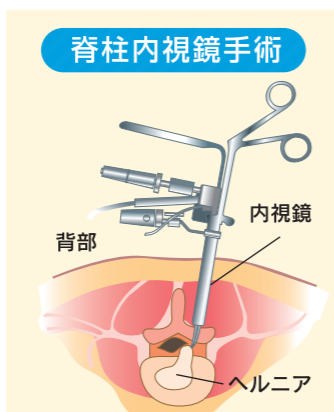


〒862-0958 熊本市中央区岡田町12-24(白山通り)
TEL 096-371-1188(代表)
<http://naruoseikei.com/>
 成尾整形外科 検索

先進的な内視鏡手術に期待集まる

ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう 腰部脊柱管狭窄症

KUMANICHI
Medical Net



患者さんの負担少なく、回復も早い
 最小侵襲の内視鏡手術

—治療法は—

矢渡 まずは血管を広げ、血流をよくする薬や痛みを和らげる薬を内服する保存的治療が中心となります。また前かがみになると痛みが緩和されるので、つえや押し車を使って歩くなど、歩き方の指導も行います。なかなか痛みが改善しない場合は、神経のブロック注射による痛みを取り除くこともあります。これは、痛みを取ることはもちろん、高齢者の場合、痛みの原因が一部分だけではないことも多いので、診断を確定させるため

前かがみで休むと症状が緩和する
 下肢の痛みやしびれが特徴

—腰部脊柱管狭窄症とは—

矢渡 背骨の腰椎ブロックに脊柱管という神経の通る管があります。その管が加齢とともに狭くなり神経を圧迫することで、周辺にある血管の血の巡りが悪くなり、痛みやしびれとなって現れるのが腰部脊柱管狭窄症です。ここで、なぜ腰にある脊柱管が細くなることで、下肢に痛みやしびれが起こるのか疑問に思われる人も多いと思います。通常は、脳から神経を伝って下肢に指令が伝達されます。しかしその通り道となる脊柱管が狭くなることで、神経の血の巡りが悪くなり、痛みやしびれとなり現れるというわけです。症状は、両足にだるさを感じたり、片足だけに痛みが出たりすることもあります。

腰痛や下肢の痛み、しびれを伴う腰部脊柱管狭窄症。最近では、患者さんの体力的な負担が少ない最小侵襲の内視鏡手術が注目されています。疾患の原因や症状、内視鏡手術について聞きました。



成尾整形外科病院 医師
矢渡 健一氏

PROFILE
 2000年琉球大学医学部卒業。先進の脊椎内視鏡手術を学ぶため2年間、和歌山県の角谷整形外科病院へ。15年から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

す。加齢とともに少しずつ症状が現れてくる人がほとんどですが、何かのきっかけで痛みを発症する人もいます。特徴的なのは、歩いていると、途中で足が痛くなったり、しびれたりするけれど、前かがみでしばらく休むと痛みが改善され、また歩けるようになる「間欠跛行」という症状です。中には、立つて炊事をしているだけでしびれて動けないという人もいます。また、血管性の下肢痛(閉塞性動脈硬化症)の場合もあるので、きちんと鑑別することが大切です。

—発症する頻度の高い年代は—

矢渡 加齢とともに脊柱管が狭くなる病気ですので、やはり高齢者が多いですね。国内で約240万人、70～80代の7～8割、40歳以上でも12人に1人が腰部脊柱管狭窄症を発症しているといわれています。

にも有効です。ブロック注射をしても、数日後に痛みを再発する場合は、手術を検討します。

—最近では、内視鏡を使った手術もできるそうですね。

矢渡 近年の先進医療では、最小侵襲の内視鏡手術ができるようになりました。手術では、背部を小切開し、直径約1.6cmの外筒管を挿入。モニタ1画像を確認しながら脊柱管の狭くなった部分を広げ、神経を圧迫している部分を切除します。小さな筒の中で手術を行うため、医師の高い技術と経験が必要となります。ピンポイントで悪いところだけを治すことができる手術として注目されています。また、切開する部分を最小限に抑えることで出血や筋肉へのダメージ、患者さんの体への負担も少なくなります。ほとんどの場合、翌日には歩行ができます。高年齢者にとって、自分で歩けることは、その後の生活の質を高めるうえでもとても大切なことです。痛みを放置せず、適切な診断、治療を行いましょう。